

全校のみなさん、おはようございます。

今週は寒波が襲来し、いよいよ冬が本格化しました。この時期は、暖かい布団でヌクヌクしたい気持ちからか、朝起きるのも億劫になりますね。そんな時だからこそ、まずは「行動」することが大事です。

さて今朝は、釈尊のお弟子の話を紹介します。インドのコーサラ国に、カッサパゴッタという人がいました。釈尊の話を全く理解できなかった彼は、自分が理解できないのは釈尊の話が丁寧でないからだと言った。釈尊のせいにしていました。

やがて、釈尊の一行がマガダ国へと旅立った後、カッサパゴッタは様々な出来事を通して、少しずつ釈尊の法話の意味を理解できるようになりました。そして、法話を聞いた時に自分が非力で理解できなかったのに、釈尊のせいにしてしまった事を思い出して後悔しました。

カッサパゴッタは思い悩んだ末、釈尊のもとへ行き、法話を聞いても良く理解できなかったことや、そのことを釈尊のせいにしたこと、そして、ようやく今法話の意味がわかって、愚かなのはこの自分であったと気づいて後悔していることなどを打ち明けました。

それに対し釈尊は、自分が悪かったことに気づき、正直に悔い改める気持ちになったこと、自分で学ぼうとし、教えを受けたいという気持ちを強く持ったこと、学ぶ喜びを知ると楽しくなることなど、そういうふうになれたカッサパゴッタのことを、喜びを持って受け入れたといいます。

このお話を聞いて皆さんはどう思われますか。日々の生活の中でちよつと立ち止まって、自分を振り返るといふ余裕がなく、ただその場が楽しければそれでいいと、大切なことに目を向けることをしないで生活していることの多い私たちです。ちよつと立ち止まる余裕を持って、自分に目を向けてみるだけで、自分勝手に物事をとらえてしまったり、人のせいにして、本当に大切なことを見逃してしまっている自分であることに気づくかもしれません。

自分にとっての大切な教えがいつも周りにあるのに、学ぼうとせず、大切なことを見逃して、思い通りになりたいのに、思い通りにならない現実には自分勝手にイライラしたり、腹を立てたりして、本当の喜びが見いだせないでいるのかもしれない。

普段の生活の中で、自分が学ぼうという気持ちを持って生活しているか、それともそんなことはまったく無関係に生活しているか、そういうことについて今朝は少し考えてみてはいかがでしょうか。